

(様式 3)

合流式下水道緊急改善事業 事業評価シート

評価実施年月：平成 29 年 2 月

1. 対象事業	市川市合流式下水道緊急改善事業					
2. 実施主体名称	市川市					
3. 計画期間	平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月					
4. 対象事業の進捗状況	以下の内容について、計画通りに実施した。 ① 雨水吐に設置する夾雑物等の除去施設 ・ 全てのポンプ場（真間・菅野ポンプ場）において、夾雑物の流出を極力阻止するため細目スクリーン（目幅 25mm）を設置した。 ② 雨水貯留施設 ・ 真間・菅野地区で既設下水管きよ内での貯留を実施した。 （真間：貯留量 1,430m ³ 相当、菅野：貯留量 5,650m ³ 相当） ③ 簡易処理施設 ・ 菅野下水処理場内に高速ろ過施設（能力 60,000m ³ /日）を設置した。					
5. 目標達成状況と達成の見通し	以下の 3 項目について、数値を用いて定量的な達成状況を示す。					
	改善項目	対策前	目標の基準値	計画の目標値	事後評価 (平成 28 年度)	達成状況
	汚濁負荷量の削減 (年間の放流負荷量)	156 千 kg	122 千 kg 以下 (分流並み)	104 千 kg	102 千 kg	目標達成
	公衆衛生上の安全確保 (年間の各吐口からの未処理下水放流回数)	真間地区 36 回 菅野地区 54 回	真間 18 回以下 菅野 27 回以下 (半減)	真間 18 回 菅野 25 回	真間 18 回 菅野 25 回	目標達成
	夾雑物の削減 (全てのポンプ場雨水吐口からの 夾雑物の流出を極力阻止)	—	夾雑物の流出 を極力阻止	夾雑物の流出 を極力阻止	夾雑物の流出 を極力阻止	目標達成
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	・ 放流先水域である真間川の雨天時水質が改善された。 (BOD 8.9 mg/L→6.4mg/L)					
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	・ 改善手法の妥当性としては、当該地域の道路事情から分流化は容易な状況になく、また、早期事業化が必要なことと経済性の観点から、新技術を積極的に導入し、高速ろ過（未処理下水の簡易処理）と流下型貯留施設によって、公衆衛生上の安全確保を達成し、高速ろ過（簡易処理の高度化）によって、汚濁負荷量の削減を達成する対策を採用した。					
8. 今後の方針	・ 整備した施設の適正な維持管理に努める。					